

北伏古協育研究所

白樺学園高等学校
生活指導部通信

第 15 号
2014年11月14日
発行者 二川 毅

学校発⇒生徒諸君・保護者行き～「愛」と「魂」を注入するための生活指導部通信！～

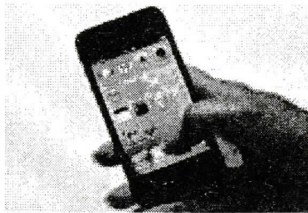
スマホに約束・ルール・ガイドラインを！

先日、十勝管内の生活指導部の先生方が一堂に会する、「生活指導研究協議会・研修会」が開催されました。お題はズバリ「ネットトラブル」。

白樺学園高校では今年の7月に全教職員向けの研修会で、同じ内容を一度勉強していたので、2度目の勉強の場となりましたが、「目からウロコ」・「再発見」なネタがゴロゴロ。情報共有・レポート的な意味合いも含めて、生徒はもちろん・保護者・教職員すべてが知っておくべき講演内容の一部を以下に報告します。

そもそもスマートフォンを持つということ

そもそも携帯端末を持つ際、必ず保護者の了解・承諾が必要・大前提。端末自体はもちろんのこと、月々の利用料も含めたら決して安くはない高価な品物です。子どもは「オレのワタシのスマホ」という概念になりがちですが、親は「買って与えているのは保護者の責任」という立ち位置に必ず立つこと。



20世紀末にインターネット・携帯電話が爆発的な普及を遂げた時代以降に産まれた現代の子ども達は「デジタル・ネイティブ」といって、物心つく頃からネット・デジタルがあふれた世界に生きている。わからないことを人に聞いたり、辞書を引いたりする前に「ネットで検索」。コミュニケーションの仕方・考え方そのものが、我々大人世代と根本的に違うため、顔をつきあわせての会話よりも画面・文字づらでの会話のほうが得意。

しかし、何のルールもなく、ネット中心の生活を送ると、「高校生という立場での安全な生活」を送れなくなることが発生します。いわゆる「依存症」と呼ばれる「ヤ・マ・イ」です。「深夜遅くまで続くスマホ利用で寝不足による生活リズムの乱れ・寝坊・遅刻」、「語気・ニュアンス・会話の前後関係が読み取れずに言葉の一人歩きによるトラブル・いじめ・誹謗中傷」、「使用禁止の場所・時間に関係なくネット最優の行動～校内・授業中のマナー違反・盗電」等々…。

ちょっと思いつくだけでも、「便利な道具」が「危険な凶器」となるのです。～そんな現代、日本国内はおろか世界各地で様々な対策が起き始めています。～

◎愛知県刈谷市の子どもは夜9時以降のスマホ禁止を学校・家庭・自治体のコラボで開始。

◎米国マサチューセッツ州の母親が13歳の息子にiPhoneをクリスマスプレゼントとしてあげた時、「スマホを使う為の18の約束」を作成～お母さんが作った使用契約書が今アメリカで話題に！

◎東京の麻生高校、兵庫の灘高校で生徒達自ら学校生活内でのスマホ利用の自主規制作成。

細かな内容は紙面の都合上ここに書き切れませんが、それぞれ各自でキーワードを「検索」してみてください。それぞれに、大きな効果が生まれているようです。

匿名は匿名ではない！・個人情報と情報戦のその先にあるもの

ツイッターをはじめとするSNSでの匿名の無責任な書き込み～いわゆる特定個人への「悪口」・「誹謗中傷」＝(立派な犯罪)が大きな社会問題になっています。その気がなくても、軽はずみな何気ない発言・書き込みでも「言葉・文字＝凶器」となり、悪質と判断されればいとも簡単に逮捕・書類送検となる世の中です(既に日本国内でも判例は多数∞！)。

「匿名だったら何書いても大丈夫・バレない！」→大きな誤解です。ネット上では匿名であっても『ログ』という通信記録が必ず残るので、警察は最終的に個人を特定でき、犯人確保に至るそうです。また、警察じゃなくても簡単に書き込みをした人間が瞬時にわかってしまう。こんな例が紹介されました。

ホテルのレストランでアルバイトをしている女子大学生が、スポーツ選手と芸能人がそのレストランで食事している事をツイート → この書き込みを見たまったく無関係の人が、「お前に著名人の情報を暴露する権利あるのかと激怒！」30分と経たないうちに、書き込み元の女性の名前・学校名・学部・所属クラブ・通っていた予備校・顔写真・バイト先のホテル名・店名が多くの人たちの検索・情報提供の末に判明。本人も途中で事態に気づきツイッターアカウントを削除するも時既に遅し。ネット上では恐ろしい位に速攻で標的にされた女子大生の「個人情報でんご盛りのスレッド(ネット掲示板)がいとも簡単に完成」。～「警察じゃありません」～普通の人たちの手による結末です。

それこそ各自でキーワードを「検索」して頂ければ、詳細はわかります。東京のウ〇〇〇〇〇ンホテルで起きた実話です。しかもネットに出た情報は一生消えません(今もwebに写真が沢山)。

「悪意なく何気なく書いた言葉」でも世の中には「不快」と「怒り」として受け取る人が沢山いるということです。そして、受け取る側が上記のようなアクションを起こせばどうなるか！

このような現象は1vs1でも、友人関係が成立しているグループ内でのネット上のやりとりでも発生しやすいトラブルです。写真も含めネット上での発言・書き込みが原因でいじめや自殺に発展するコトも。そうなったら取り返しはつきません。大人でもショックです不安です。多感な時期の君たち高校生だったら考えてだけでも…。

じゃあ、LINEだったら大丈夫!?

ではなくってきています。これまで、LINEの会話は、他のSNSとは違い「サイバーネットパトロールができない」ものでしたが、技術革新とはまさにこのこと。「LINE単語監視サービス」なるソフトを開発した業者が出できました。～救世主の出現です。

子どもが無料通信アプリLINEで友達から受け取ったメッセージを、親に代わって監視するサービスで、いじめに発展しそうな会話が連続すると、親が閲覧する専用ページに警告表示され、親は、誰との会話でいつどんな会話がされたかを確認できるという機能がある。

冒頭にも述べましたが、「買って与えているのは保護者の責任」です。お子さんが、ネット関連の被害者にも加害者にもならないために、導入を検討してみたいかがでしょうか！?

その他、学校だけではなく、家庭でもメディアリテラシー教育・ネチケット育成教育できるスマホ用無料アプリも開発されています。「スマホにひそむ危険～疑似体験アプリ」by デジタルアーツ(株)という会社が開発。是非、親子で一緒にこの機会に別の意味で真剣に「スマホと向き合って」みてはいかがでしょう？

